

高齢者 インフルエンザ 予防接種について

年1回の高齢者インフルエンザ予防接種を実施しています。接種には受診券が必要で、本人が希望される場合に限ります。流行前に予防接種を受けることは予防の基本であり、世界的に認められている有効な方法です。

◆対象

左記に該当し、希望される方
○満65歳以上の方（すでに受診券を送付しています）＊今年65歳になられる方は、12月31日までに生まれた方で、65歳になってから接種できます。

○60歳以上65歳未満の方で心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能または免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障がいがあり（身体障がい1級程度で）医師が接種を必要と判断した方↓下記までお問い合わせください

◆負担金
千円

◆実施期間

西部指定医療機関は10月20日～平成21年1月31日（中部指定医療機関は11月1日～平成21年1月31日）

◆問い合わせ先

福祉保健課
☎0859・54・5207

高血圧を 予防しましょう

高血圧は放置しておく、突然の脳血管疾患等の病気を引き起こす危険性が高まります。不健康な生活習慣を改善することで血圧をコントロールすることはできます。この機会にぜひ、高血圧についてのお話をお聞きください。

◆日時

11月21日（金）
13時30分～14時30分

◆場所

◆内容

講演「高血圧について」

名和診療所長

山脇美香医師

◆問い合わせ先

福祉保健課
☎0859・54・5207

Health

診療所 待合室

インフルエンザと 新型インフルエンザ



大山口診療所
久野宣年

現在様々な社会問題（食の安全、自然災害、経済問題など）があり、どれも大変な問題なのですが、第一に準備をし心構えが必要な問題は、新型インフルエンザだと思います。

新型インフルエンザは、インフルエンザの一種ではありますが毎年冬に流行するインフルエンザとはまったく異なる感染症です。これまででも10～40年間隔で発生しており、スペイン風邪、香港風邪と言われた感染症と同じものです。新型インフルエンザは、鳥の大量死をもたらした鳥インフルエンザの原因ウイルスが人間への感染力を持つことによって発生します。人間には全く初めてのウイルスなので抗体もなく瞬く間に世界に広がる可能性があります（これをパндеミックといいます）。これまでにインドネシアなどで数百人の人が感染し、その半数以上が死亡しています。パндеミックにはなっていません。

現在厚生労働省は日本の人口の25%が感染し、その2%（64万人）が亡くなると想定しています。これに基づいて大量の抗ウイルス剤（タミフルなど）を国、県などで備蓄しています。また感染症が広がれば全ての学校、保育園などは休校・休園となり全国の公共交通はストップします。多くの商店も閉まるので、2週間程度の水や食糧の備蓄を各自・各家庭に呼びかけてもいます。あまり知られていませんが市町村や保健所では各種対策が進められています。

もし新型インフルエンザの流行が現実のものとなったとしても、いたずらに恐れることなくパニックになることがないよう心の準備をして町の広報などに注意して下さい。

新型インフルエンザの症状は発熱、風邪症状ですから、発熱した人の為に病院とは別に発熱センターが各地に出来、ワクチンが町民全員に接種出来るよう確かな計画は立てられています。

新型インフルエンザは災害です。地震と同様に何時起こるか分かりませんが、恐れず準備をしておけば一人一人必ず対応できる災害でもあります。